



図 1-5(2) ボーリングコア写真 (PB-4) (盛土: 深度 0~29.80m)

標尺 (m)	深度 (m)	標高 (O. P. m)	柱状図	岩壁分類	地質名	砂岩の粗度区分	色調	地層の正逆	観察事項		割の風化 割れ目沿い	風化度	コア形状	R Q D	最大コア長 (cm)	送水量 / 排水量 (l)	使用ビット	試験位置	孔内水位						
									地質について	割れ目について															
0	0.30	13.42			砕石 硬凝じり砂質土 砂礫 コンクリート 砂凝じり砂(埋戻し土)		暗灰 暗黄灰 黒灰	地層の正逆	<p>0.00~0.30m: 砕石φ1~4cm</p> <p>0.30~2.00m: 砕石+砂質土。径1~2cmで、角状の砂岩と頁岩、クラックサーランク。</p> <p>2.00~3.02m: 貝殻凝じり粗砂+礫。礫は0.5~3cmの歪角~角礫。風化砂岩礫、新鮮頁岩。礫の混入率は10~20%。</p> <p>3.55~3.82m: コンクリート。</p> <p>3.82m以下: 砂凝じり礫。径0.5~4cmの角礫、頁岩主体。混入率40~50%。</p>																
2.00	11.72	3.55							3.82	4.90	5.17	5.79	7.93	9.00	4.72										
5	5.17	8.55							5.79	7.93	9.00														
				Cr Cr Cr	頁岩 ひん岩	粗 細	黒灰 淡褐灰 黄灰	地層の正逆	<p>4.90~5.17m: 厚さ0.1~2cmのレンズ状頁岩片を水平方向に置れる。</p> <p>5.17~5.79m: 砂岩の薄層を挟む。</p> <p>5.79~6.80m: ひん岩と頁岩の接触部は分離し、角度は不明。</p> <p>6.80~8.20m: 60°~80°の割れ目が目立つ。</p> <p>8.20~9.00m: 60°~70°の割れ目が目立つ。</p> <p>ひん岩の割れ目面は褐色化し、一部割れ目に沿って軟質化している。</p>		II~I III II I														

図 1-6(1) ボーリング柱状図 (25BW-1) (盛土: 深度 0~4.90m)

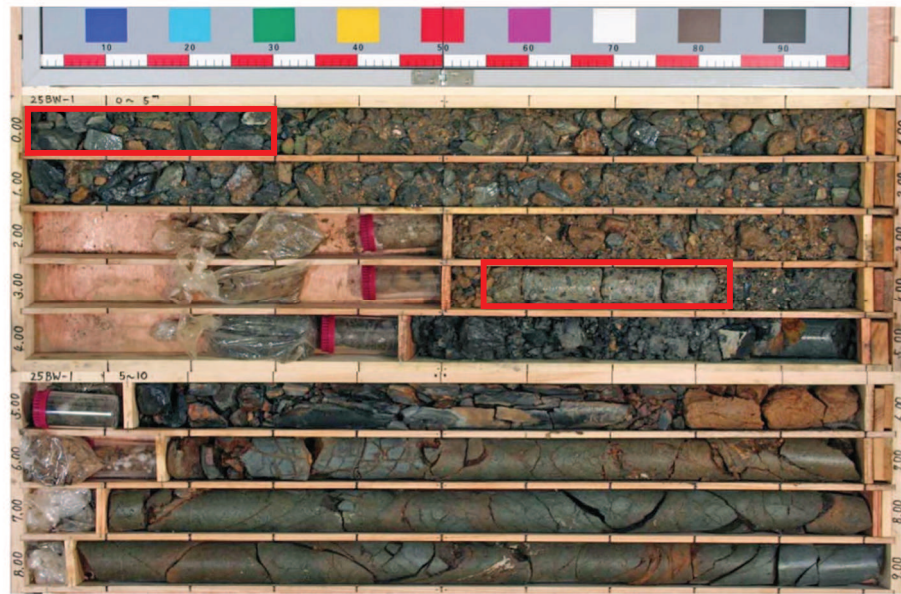


図 1-6(2) ボーリングコア写真 (25BW-1) (盛土：深度 0～4.90m)



図 1-7(1) ボーリングコア写真 (25BW-4) (盛土: 深度 0~19.57m)

標尺 (m)	深度 (m)	標高 (O. P. m)	柱状図	岩盤分類	地質名	砂質の程度区分	色調	地層の傾斜	観察事項		割の風化目録	風化度	コア形状	R Q D	最大コア長 (cm)	送水量 / 排水量 (l)	使用ビット	試験位置	孔内水位	
									地質について	割れ目について										
0	0.42	13.02			砂石		黒灰		0.00~0.42m: φ0.6~1.5cm主体で2~4cm、最大8cmの頁岩、砂岩層。大きい層は砂岩。 0.42~4.85m: 0.92~4.85mは半固結状の部分が認められることから、非セメント系の改良体(後に無反応)で、1.80~1.95m、2.80~2.90m、3.74~4.00mは圧入で割れる程度に固結している。 マトリックスは砂とシルトが混在し、量は不均質である。礫は径0.5~2mmが主体でこれに径5~15cmの硬質礫が散在し柱状で存在する。礫の埋入率は40~50%であるが4.45~4.85mは礫が密集し、埋入率は60%以上と思われる。 4.85~5.94m: マトリックスは、頁岩片を混入する粗砂と細礫よりなり、礫は2cm以下で最大4cm程度である。 埋入率は10%程度である。 5.94~7.00m: 柱状コア。 6.24m: 長さ10cmのコンクリート片を初め、0.4~5cm次の礫と15cm次の玉石を混入する改良体。 強い圧入で砂質部がへこむ。 埋入率は10%程度である。 7.00~11.67m: マトリックスは砂とシルトで1.5cm以下の礫が混入されたものが主体である。 7.00~7.95m: 細礫混じり砂で、礫の径が5~10cm程度で所々に認められる。 礫の埋入率は10%程度である。 11.67~14.66m 11.67~13.62m: シルト分が混じり、径1cm程度の頁岩、砂岩礫が混入されている。これに径3~5cm、最大7cm程度の砂岩礫が存在する。埋入率は10~15%である。 13.62~14.66m: 砂。 中~粗粒の石英粒に富んだ砂で、同質の軟質礫(圧入で潰れる)を含む。 14.66~18.20m: マトリックスは砂とシルトで部分的にシルトのみの箇所もあり。 15.60~15.90m、16.45~16.73m間: マトリックス流失。 礫は砂質、頁岩で硬質なもの、風化しているものが混在する。 径は1~3cmが主体で、5~10cm次の礫状~柱状が混入する。 礫の埋入率は30~40%である。		5 4 3 2 1	E D C B A	10 20 30 40 50 60 80 (N)	15/0 2.45 10/0~7 8.45 10/0 14.50 10/5 18.20	試験 1.1m	7/4 認めず				
18.20	18.60	-4.78			頁岩		黒灰	60°	18.45~18.60m: 厚さ1.5~2cmでコア地方向に板状である。 18.60~20.30mまで、60°~70°の層化を伴う層が多い。 20.30m以下: 水平方向の割れ目が目立つ(黄色化) 20.00m以下: 水平方向の割れ目目立つ。	II I		18.80 18.85 36 45 50.7 50.7 16 20.40 20.74 21.08 21.44 76 50.3 27 90 30	18.20	18.60	19.00	10/0	ダイアモンドビット			
18.60	21.40	-5.16		Ch	砂岩		黒灰	60°	20.90m: 晶洞? 0.8x5cmで白色板状結晶あり。 21.40mより、頁岩0.1~2.0cm、砂岩0.1~2cmの互層。				18.20	18.60	19.00	10/0	ダイアモンドビット			
21.40	22.00	-7.96			細互層			65°						18.20	18.60	19.00	10/0	ダイアモンドビット		
22.00		-8.56												18.20	18.60	19.00	10/0	ダイアモンドビット		

図 1-8(1) ボーリング柱状図 (25BW-5) (盛土: 深度 0~18.20m)



図 1-8(2) ボーリングコア写真 (25BW-5) (盛土: 深度 0~18.20m)



図 1-9(2) ボーリングコア写真 (25BW-6)
(盛土：深度 0～14.00m, 旧表土：深度 14.00～15.18m)

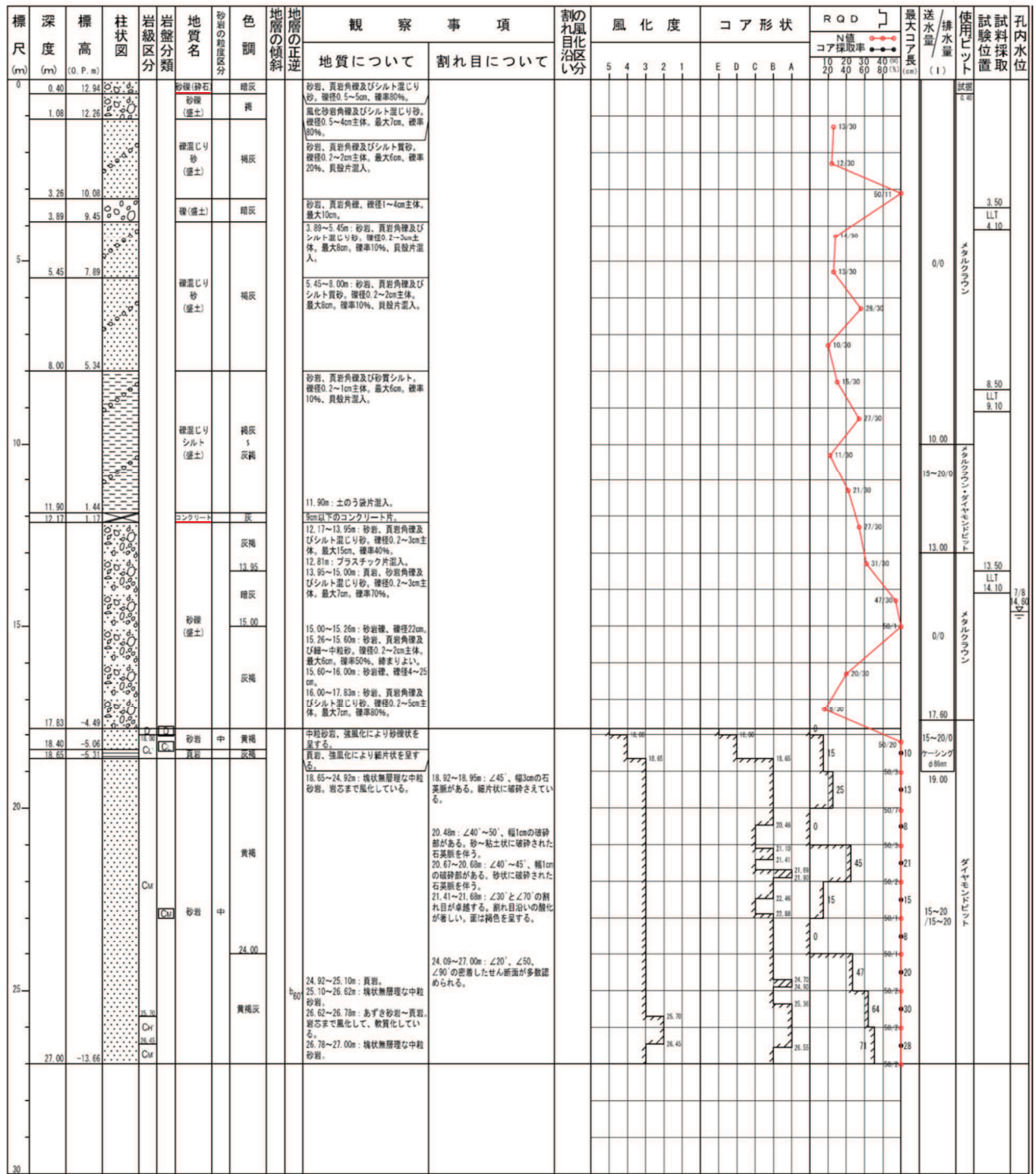


図 1-10(1) ボーリング柱状図 (25BW-7) (盛土: 深度 0~17.83m)



図 1-10(2) ボーリングコア写真 (25BW-7) (盛土：深度 0～17.83m)

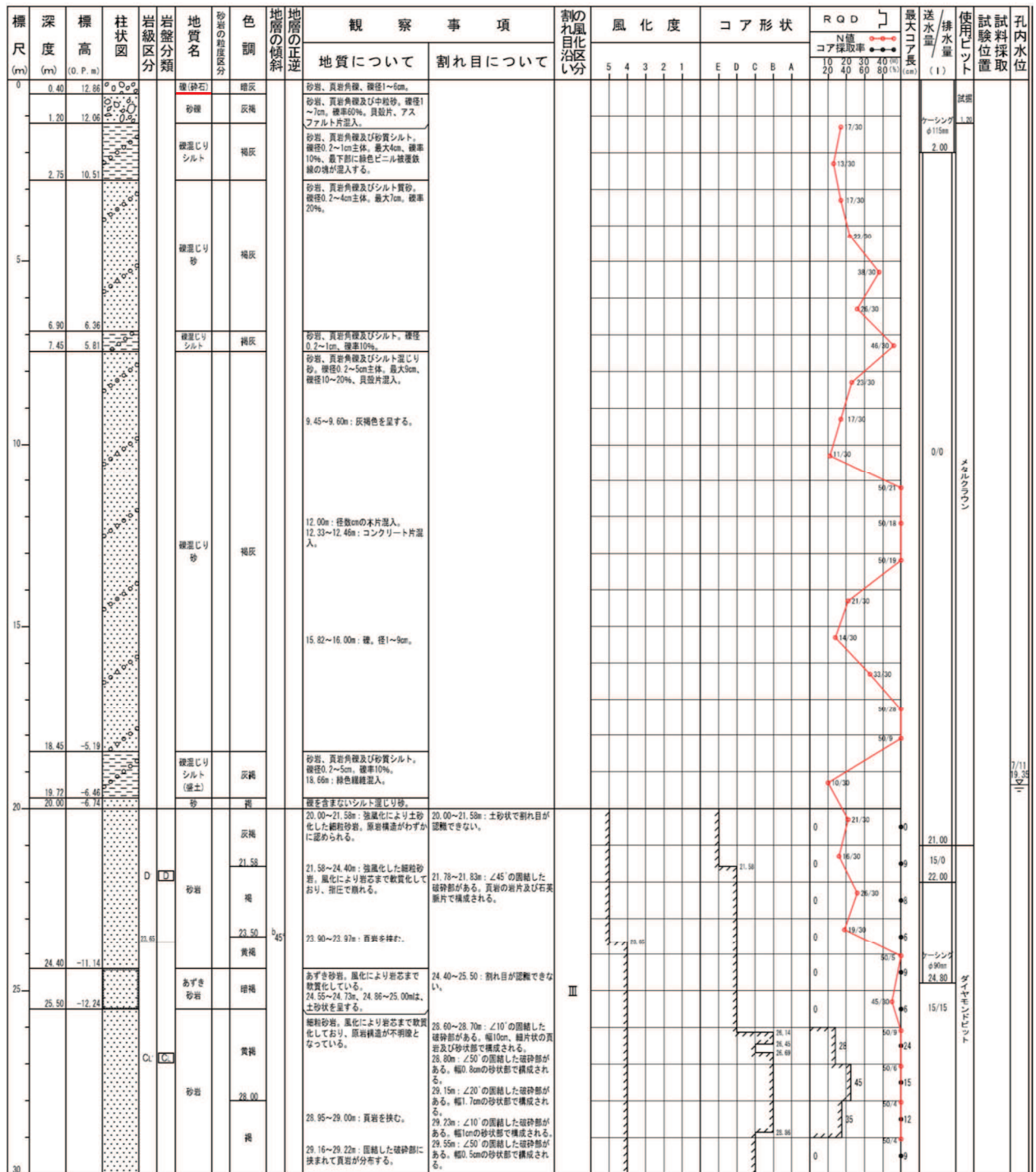


図 1-11(1) ボーリング柱状図 (25BW-8) (盛土: 深度 0~19.72m, 旧表土: 深度 19.72~20.00m)



図 1-11(2) ボーリングコア写真 (25BW-8)
 (盛土 : 深度 0~19.72m, 旧表土 : 深度 19.72~20.00m)



図 1-12(2) ボーリングコア写真 (25BW-9)
 (盛土 : 深度 0~20.73m, 旧表土 : 深度 20.73~22.35m)

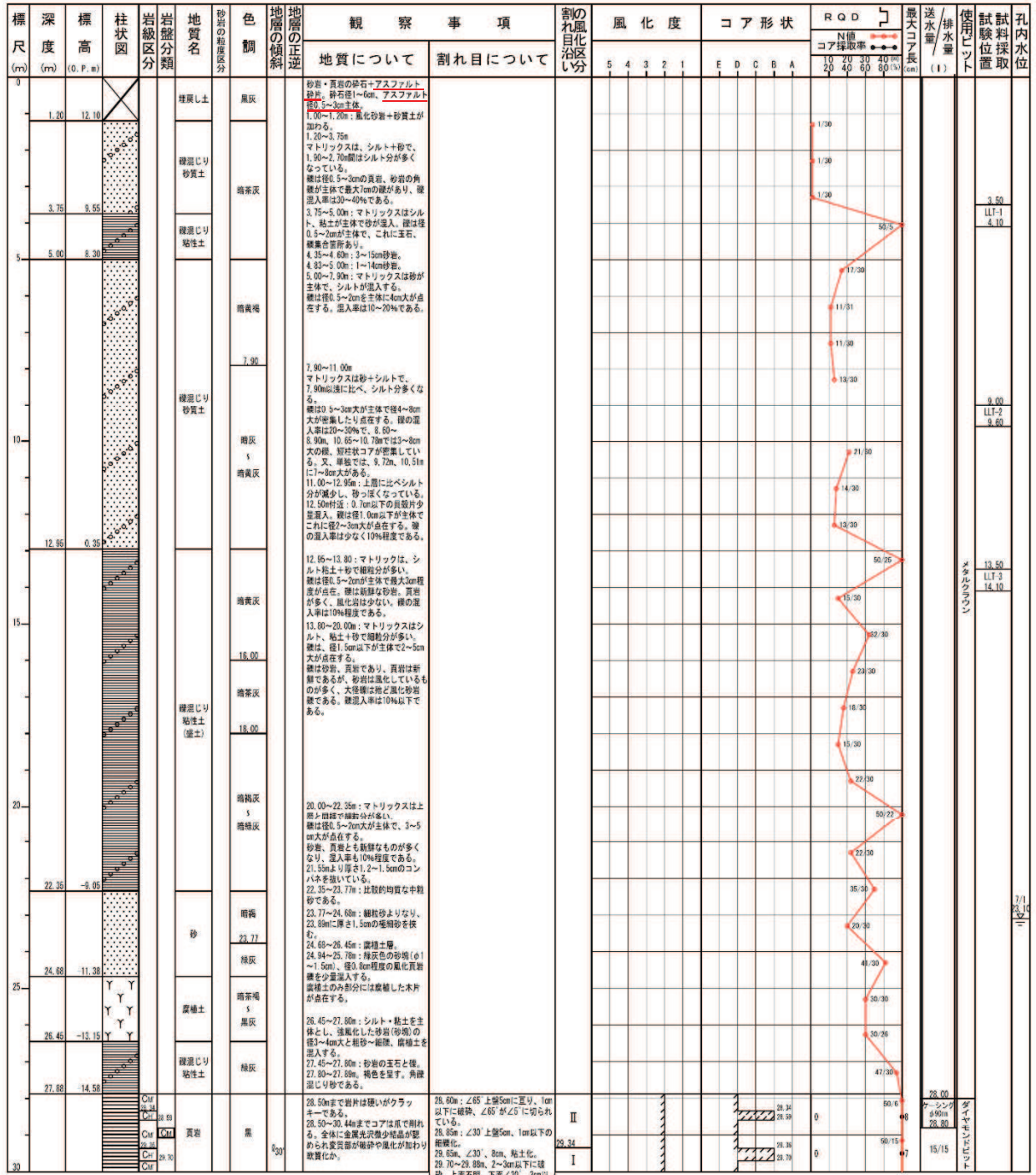


図 1-13(1) ボーリング柱状図 (25BW-10)
(盛土: 深度 0~22.35m, 旧表土: 深度 22.35~27.88m)

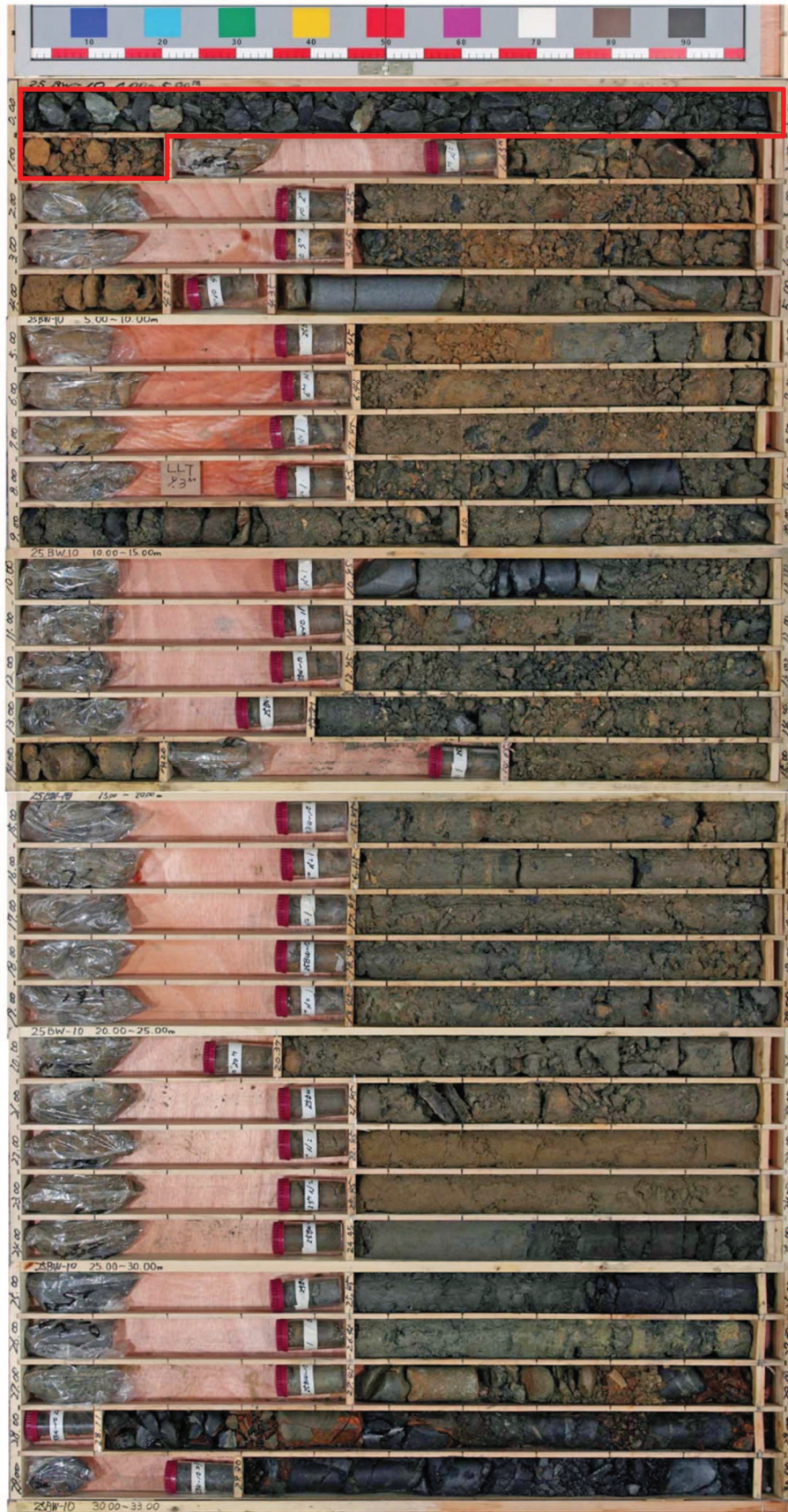


図 1-13(2) ボーリングコア写真 (25BW-10)
 (盛土：深度 0～22.35m, 旧表土：深度 22.35～27.88m)

標尺 (m)	深度 (m)	標高 (0. P. m)	柱状図	岩盤分類	地質名	砂岩の粒徑区分	色調	地層の正逆	観察事項		割れ目風化区分	風化度	コア形状	R Q D	最大コア長 (cm)	送水量 排水量 (l)	使用ビット	試験位置	孔内水位		
									地質について											割れ目について	
									S	4										3	2
0					埋戻し土		黒灰		0.00~1.35m: 40.5~3.5cmのアスファルト舗装。砂岩、頁岩、最大7cm。												
	1.35	11.92					暗黄灰		1.35~4.00m: マトリックスはシルト+砂。礫は径1~2cmの新鮮頁岩の角礫が多く、5.45mには、6cm次の風化砂岩、粘土層がある。礫の混入率は10%程度と少ない。												
							4.00		4.00~10.61m: マトリックスは、砂+シルト+粘土で礫は径5~2.0cmの風化砂岩が多く、SPTでは礫を砕いて貫入している。7.65m: 径6cm次の新鮮な砂岩がある。又、礫の少ない部分では、粘土分が多く、10cm次で所々に認められる。礫の混入率は10%程度で少ない。												
					硬湿じり砂質土		暗黄褐 s 暗黄灰		10.61~10.80m: 暗褐色、明灰色を呈す粘性土を挟む。												
							10.80		11.29~14.54m: マトリックスは、細砂+細礫で頁岩片を多量に混入する。礫は径0.5~2cm次の砂岩、頁岩を主体とし、これに径1~7cm次の角立りたり密着したりする他、砂岩の玉石、粘土「コンクリート塊」を混入する。11.29~11.53m: 硬密集。11.53~11.64m: 砂岩砂岩。12.00~12.13m: コンクリート片。12.29~12.50m: 砂岩砂岩。13.50~13.63m: コンクリート塊。全体での混入率は40~50%である。												
	11.29	1.98			砂礫				14.54~19.96m: マトリックスは、砂を混入するシルト質土である。礫は径0.5~2cmが主体で最大3cmを所々混入。礫は風化砂岩、新鮮な頁岩・砂岩である。礫の混入率は、14.54~18.00m、19.50~19.96m間で20~30%と多いが、それ以外では10~20%と少なく、マトリックス部が10~15cmで礫を含まない部分と互層状に入っている所もある。												
	14.54	-1.27					暗灰 s 暗黄灰		19.96~22.00m: 中砂主体で上部に細砂を混入する。												
					硬湿じり粘性土				22.00~24.20m: 細砂+中砂で、上部にシルト分を他と比べ多く含む。												
	19.96	-6.63					24.20		24.20m~ 25.45~25.00m間、コア採取時落下、回収。 25.25~26.74m: 所々に緑灰色粘土層を挟む。 26.44m: 0.5~0.8cm次の礫の配列が水平である。 26.74~27.40m: 径0.5~3cm、最大5cmの砂岩礫を40~50%で混入する。 27.40m: シルト、粘土分を混入し、砂分少ない。礫の径、量とも上部と差はない。												
					砂 (沖積層)		暗灰 s 暗黄灰		28.63m以深: やや泥質な塊状砂岩で新鮮で硬い。												
	25.25	-11.98					27.00		28.63m以深: やや泥質な塊状砂岩で新鮮で硬い。 29.04~29.63m: 低角度割れ目でコアは25~7cmの短柱状を呈す。												
	26.74	-13.47			腐植土		暗茶灰														
	27.40	-14.13			砂礫		暗灰														
	28.63	-15.36			硬湿じり粘性土		暗緑灰														
					砂岩		暗灰														

図 1-14(1) ボーリング柱状図 (25BW-11)

(盛土: 深度 0~19.96m, 旧表土: 深度 19.96~28.63m)



図 1-14(2) ボーリングコア写真 (25BW-11)
 (盛土 : 深度 0 ~ 19.96m, 旧表土 : 深度 19.96 ~ 28.63m)

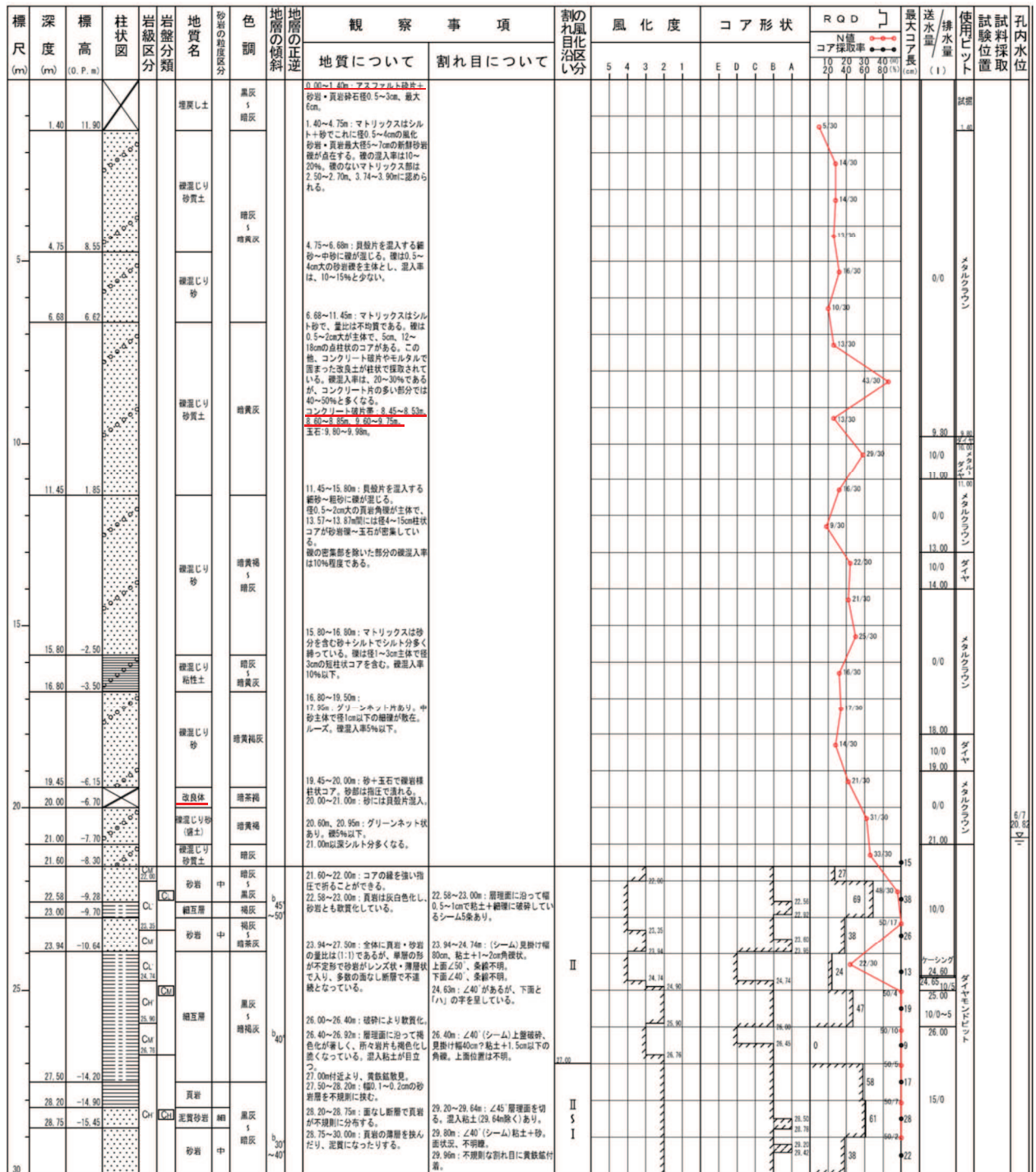


図 1-15(1) ボーリング柱状図 (25BW-12)

(盛土: 深度 0~21.00m, 旧表土: 深度 21.00~21.60m)



図 1-15(2) ボーリングコア写真 (25BW-12)
 (盛土：深度 0～21.00m, 旧表土：深度 21.00～21.60m)

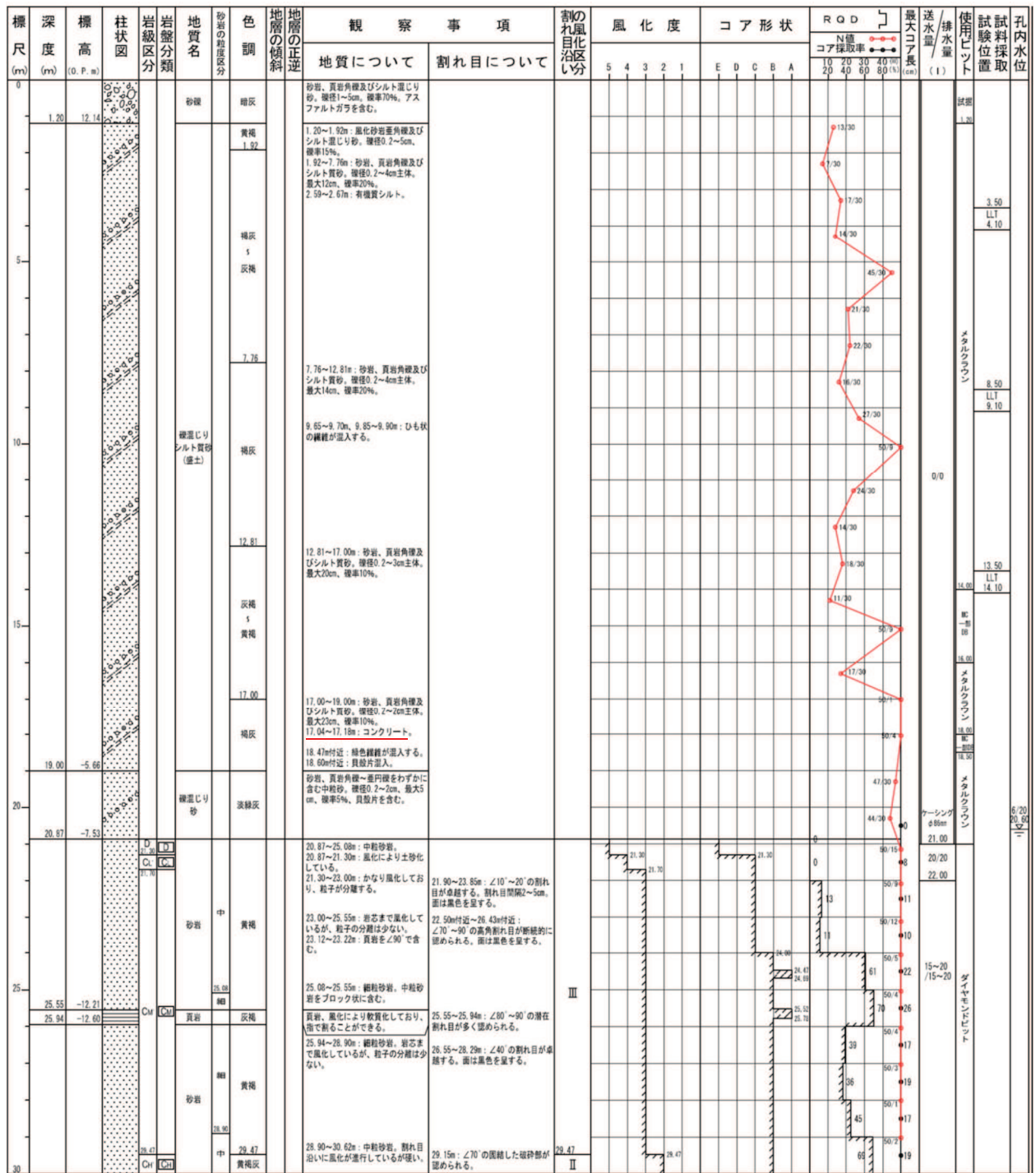


図 1-16(1) ボーリング柱状図 (25BW-13)

(盛土: 深度 0~19.00m, 旧表土: 深度 19.00~20.87m)



図 1-16(2) ボーリングコア写真 (25BW-13)
 (盛土：深度 0～19.00m, 旧表土：深度 19.00～20.87m)

標尺 (m)	深度 (m)	標高 (O.P.m)	柱状図	岩盤分類	地質名	色調	地層の傾斜	観察事項		割れ目風化度	風化度	コア形状	RQD	最大コア長 (cm)	送水量 / 排水量 (l)	使用ビット	試験位置	孔内水位		
								地質について	割れ目について										S	4
0					アスファルト砕石	黒灰		アスファルト砕石による埋戻し。0.0~0.6m: φ4~6m, 100%。0.6~1.65m: 0.1~3cm大で1cm以下が90%程度。1.00~1.65m: 0.2cm大が主体で微細じり砂状。径1.5cm以下。1.65~7.45m: 微細じり砂質土(盛土)。マトリックスはシルト+砂。礫は径2~1.5cmを主体とし、最大4cm程度のものが点在する。礫の混入率は20%程度である。全体では礫の混入は、径・量とも不均質であり、礫の多い部分は1.65~1.75m、1.95~2.00m、2.90~2.95m、5.45~5.50m、6.45m付近と厚さは5~15cmである。これらを除く部分では主体が、1.5cm以下の礫とマトリックスよりなる。												
1.65		11.72			微細じり砂質土	黄灰		7.83~8.18m: 粗粒砂岩。水平方向で分割され2~4cm大(max5cm)の短柱状採取されている。8.18~10.80m: 微細じり粘性土(盛土)。マトリックスは砂を混じえるシルトの粘性土。礫は径2~4cm(最大3cm)の礫や短柱状で上部に比べ、径も量も多く混入率は30~40%である。礫種は砂岩、頁岩で風化し軟質になっているもの、径1もの種々である。10.80~14.90mの標準貫入試験試料は頁岩礫である。11.30~14.50m: 微細じり砂質土。マトリックスは細砂+泥炭、シルトが混入する部分がある。礫は0.2~3cm大で混入率は20~30%である。礫は散在する。14.50~14.90m: 頁岩礫。ナイフで割れる。径1~3cmで短柱状のものもある。												
8.18		5.19			微細じり粘性土	黄灰		14.80mから粘性土。14.90mより、薄液砂。細砂を主体とし、細砂中砂も混入する。φ5mm程度以下の石英粒、黒色頁岩、頁岩片を多く混入。												
10.80		2.47			微細じり砂	黄灰		18.00m付近からの礫は大きくなり、1cm程度のものが10%程度混入する。径5cmの砂岩、頁岩がある。全体が延長頁岩系礫岩の砂か？												
14.90		-1.53			微細じり砂質土(盛土)	黄灰		細砂と0.4~3cm程度の頁岩砂岩の円礫を主体とし、最大8~10cm大が混入。微細混入率は85~90%。												
19.48		-6.11			砂礫	黄灰		細砂+中砂を主体とし、φ1~2cm大が全体に10%程度混入し、3~5cm大の砂岩の角礫が点在する。21.70m付近、21.83~22.00mに細砂+1~2cmの歪形~歪角礫集束帯あり。22.83m付近に5cm程度の粘性土層を挟む。22.83~23.00m: シルト分を含む。												
19.48		-6.11			砂礫	黄灰		柔らかい。23.68~23.83m: 細砂。23.83~23.88m: 2~3cm大砂岩礫集(軟質)。23.88~23.98m: φ0.5~0.8cm大頁岩礫混入。												
23.30		-9.93			シルト質粘土	黄灰		シルト分を混入する極細砂~細砂。24.50~25.45m: やや軟質な砂岩礫+1~5cm大砂岩~50%混入。												
23.68		-10.31			砂	黄灰		シルト分を混入する極細砂~細砂。24.50~25.45m: やや軟質な砂岩礫+1~5cm大砂岩~50%混入。												
23.98		-10.61			砂	黄灰		シルト分を混入する極細砂~細砂。24.50~25.45m: やや軟質な砂岩礫+1~5cm大砂岩~50%混入。												
24.47		-11.10			微細じりシルト質砂	黄灰		φ1~2cmの砂岩礫とφ1cm以下の頁岩角礫を70%程度に粘性土が充填している。												
25.72		-12.35			粘性土	黒		パルマラーの経打で割った音を奏す。この礫は強い粘性で割れ、岩片状をなす。0.2~0.4cmの頁岩片を不規則に挟む。												
26.45		-13.08			粘性土	黒														
27.50		-14.13			粘性土	黄灰														
27.87		-14.50			粘性土	黄灰														
28.60		-15.23			砂岩	黄灰														
28.60		-15.23			砂岩	黄灰														

図 1-17(1) ボーリング柱状図 (25BW-14)

(盛土: 深度 0~14.90m, 旧表土: 深度 14.90~28.60m)



図 1-17(2) ボーリングコア写真 (25BW-14)
 (盛土：深度 0～14.90m, 旧表土：深度 14.90～28.60m)



図 1-18(2) ボーリングコア写真 (25BW-15) (盛土：深度 0～30.00m)

標尺 (m)	深度 (m)	標高 (O. P. m)	柱状図	岩盤分類	地質名	砂岩の粒度区分	色調	地層の傾斜	観察事項		割の風化度	風化度	コア形状	R Q D	最大コア長 (cm)	送水量 / 排水量 (l)	使用ビット	試験位置	孔内水位		
									地質について	割れ目について										5	4
	1.65	11.60			埋戻し土				0.00~1.65m: アスファルト汚染及び砂岩角礫主体、径0.5~4cm主体、最大5cm、細粒分は中~粗粒砂、礫率90%。												
					礫混じり中粒砂				1.65~4.95m: 砂岩・頁岩角礫を含むシルト質中粒砂、礫径0.5~5cm主体、最大3cm、礫率10%、粘性あり。												
					黄灰 礫混じり中粒砂				4.95~6.50m: 砂岩・頁岩角礫を含むシルト質中粒砂、礫径0.5~5cm、礫率15%、粘性あり。												
					黄褐 礫混じり中粒砂				6.50~7.00m: 頁岩角礫を含むシルト質中粒砂、礫径0.5~2.5cm、礫率5%、粘性あり。												
					黄褐 礫混じり中粒砂				7.00~7.43m: 頁岩角礫を含むシルト質中粒砂、礫径0.2~3cm、礫率15%、粘性低。												
					黄褐 礫混じり中粒砂				7.43~8.30m: 砂岩・頁岩角礫を含むシルト質中粒砂、礫径0.5~2cm主体、最大7cm、礫率10%、粘性あり。												
					砂礫 埋戻し土				8.30~10.47m: 砂岩・頁岩角礫及びシルト混じり中粒砂、礫径0.5~5cm主体、最大5cm、礫率30%、粘性低。												
					砂礫 埋戻し土				10.47~13.45m: 砂岩・頁岩角礫を含むシルト混じり中粒砂、礫径0.5~5cm、礫率10%、頁岩を多く含む、粘性低。												
					埋戻し土 礫混じり中粒砂				13.45~18.45m: 砂岩・頁岩角礫を含むシルト質中粒砂、礫径0.5~4cm主体、最大7cm、礫率15~20%、頁岩を含む、粘性あり。												
					埋戻し土 礫混じり中粒砂				18.45~20.74m: 砂岩・頁岩角礫を含むシルト混じり中粒砂、礫径0.5~5cm主体、最大7cm、礫率20%、頁岩を少量含む、粘性低。												
					埋戻し土 礫混じり中粒砂				20.74~23.00m: 砂岩・頁岩角礫を含むシルト質中粒砂、礫径0.5~6cm、礫率10%、粘性あり。												
					埋戻し土 礫混じり中粒砂				23.00~24.70m: 砂岩・頁岩角礫を含むシルト混じり中粒砂、礫径0.5~4cm、礫率20%、粘性低。												
					埋戻し土 礫混じり中粒砂				24.70~27.88m: 砂岩・頁岩角礫を含むシルト質中粒砂、礫径0.2~3cm主体、最大10cm、礫率10~15%、粘性あり。												
					砂礫 (盛土)				27.88~30.00m: 砂岩・頁岩角礫及びシルト混じり中粒砂、礫径0.2~6cm、礫率40~50%、粘性低。												

標尺 (m)	深度 (m)	標高 (O. P. m)	柱状図	岩盤分類	地質名	砂岩の粒度区分	色調	地層の傾斜	観察事項		割の風化度	風化度	コア形状	R Q D	最大コア長 (cm)	送水量 / 排水量 (l)	使用ビット	試験位置	孔内水位		
									地質について	割れ目について										5	4
	31.05	-17.80			砂礫 (盛土)				30.00~30.88m: 砂岩・頁岩角礫及びシルト混じり中粒砂、礫径0.5~5cm主体、最大5cm、礫率50%、粘性低。	31.52~32.61m: $\angle 30^{\circ} \sim 40^{\circ}$ の割れ目主体。面は赤褐色に酸化している。											
					埋戻し土				30.88~31.05m: 細粒分は黄褐色砂質シルト。	32.91~34.49m: $\angle 30^{\circ} \sim 40^{\circ}$ の割れ目主体。面は黒色を呈する。											

(深度 33m 以深には岩盤が連続しており、ここではこの区間の柱状図とコア写真を割愛)

図 1-19(1) ボーリング柱状図 (25BW-16) (盛土: 深度 0~31.05m)



図 1-19(2) ボーリングコア写真 (25BW-16) (盛土：深度 0～31.05m)

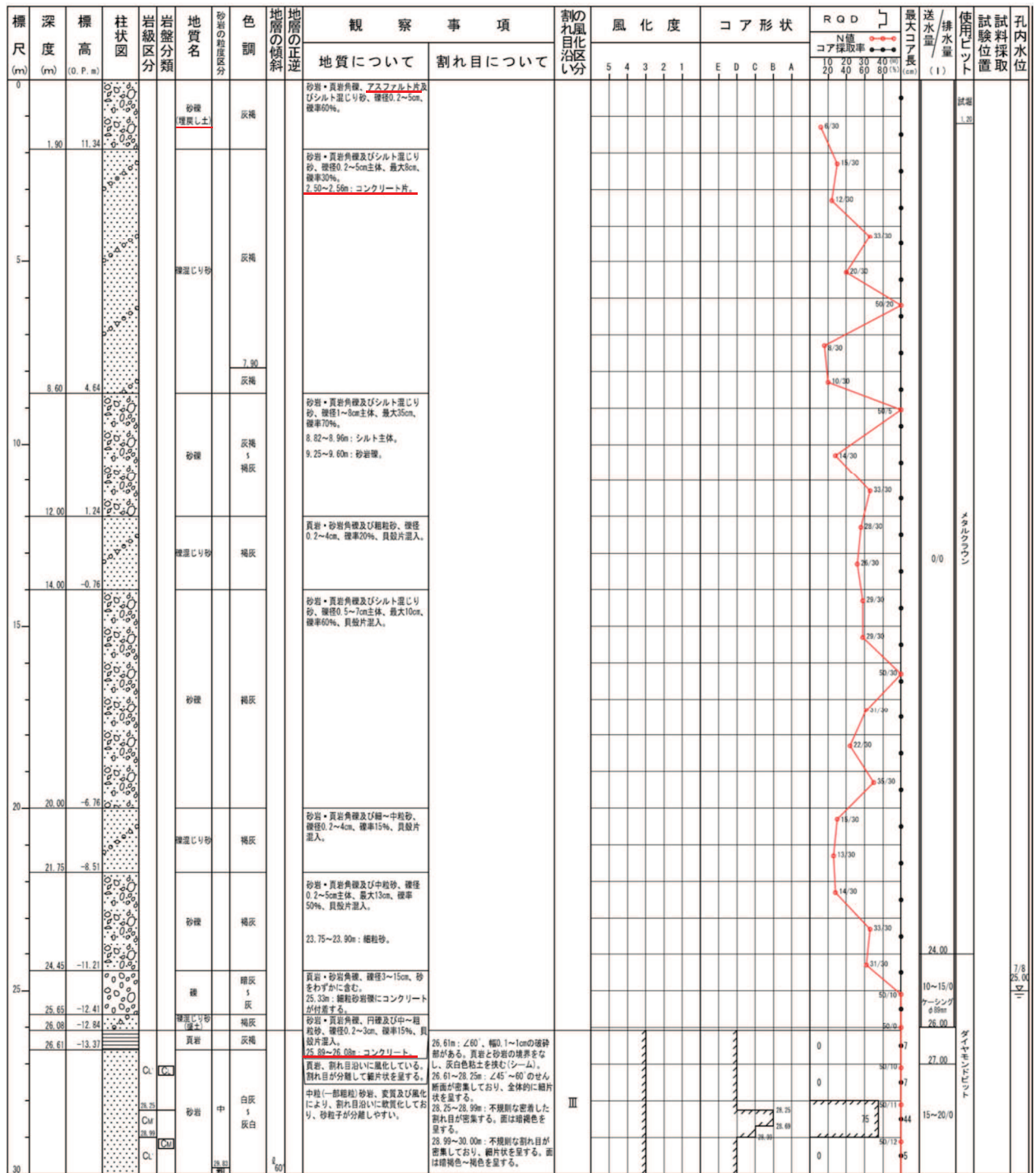


図 1-20(1) ボーリング柱状図 (25BW-17) (盛土: 深度 0~26.08m)



図 1-20(2) ボーリングコア写真 (25BW-17) (盛土：深度 0～26.08m)

標尺 (m)	深度 (m)	標高 (0 P.m)	柱状図	岩盤分類	地質名	砂岩の粗度区分	色調	地層の傾斜	観察事項		割れ目風化区分	風化度	コア形状	R Q D	最大コア長 (cm)	送水量 / 排水量 (l)	使用ビット	試験位置	孔内水位				
									地質について	割れ目について													
0	0.35	12.87			埋戻し				0.0~1.5m: 埋戻し														
	3.62	9.60			硬質じり砂質土				1.5~3.62m: アスファルト砂質土 0.35~3.62m: マトリックスは砂+シルトで全体に砂が多いが、シルト分の多い箇所もある。礫は、径0.5~3cmが主体で、径5~9cmが点在する。2.60m、3.50mに長さ5~8cmの砂質短~長柱状コアあり。礫の混入率は20~30%である。														
	6.25	6.97			硬質じり粘土				3.62~6.25m: マトリックスはシルトを主体として砂・粘土が混入する。礫は、砂質・頁岩の風化岩が多い。80.5~3.5cmが主体で5~8cmの砂質短~長柱状コアあり。礫の混入率は10~20%である。														
	9.80	3.42			埋戻し				6.25~7.80m: 径0.2~2.5cm、最大3cmの短柱状コアで新鮮な頁岩・砂岩と、風化砂岩よりなる砂にシルト分が混入。6.65~6.72m、6.80~6.93m、7.45~7.52m間は頁岩礫主体で密集している。礫の混入率は20~30%である。														
	15.20	-1.98			粘土じり砂 (盛土)				7.80~8.54m: 径0.5~1.5cmの頁岩・砂岩礫が主体で混入率は10%程度である。 8.54~8.74m: 砂礫径0.2~1.5cmの頁岩+砂岩礫; 最大1cmの砂岩礫3cmの頁岩ラ片あり。マトリックスは砂+シルト+粘土であるが、8.74mはシルトが多い。 9.00~9.10m: 埋戻し土のラ片。 9.10~9.20m: コンクリート片あり 9.54m以下、礫の混入率は10~20%である。 9.80~15.20m: マトリックスは細粒分を混入する中砂~粗砂で、これに径0.2~2.5cmの砂岩・頁岩礫を主体とし、径3~7cmの風化砂岩・頁岩・新鮮な砂岩礫が混入する。径10~18cmのものを認められる。又、12.75~13.82m間には所々粘土塊が1~3cmで認められる。礫の混入率は30~40%である。立石は10.55mにφ13cm、13.55mにφ10cm、14.09mにφ18cmがある。 14.80~15.00m: 縦線度の無いコンクリート塊、硬質じり砂質土状。														
	16.45	-3.23			砂				15.20~16.45m: 砂 15.45~15.60m: 径6cmの砂岩・頁岩角礫2ヶあり。 15.90~16.00m: 粗砂-細砂 16.00~16.45m: 細砂均質 16.45~16.90m: 径0.4~0.8cmの風化頁岩・褐色砂塊分を有する粘土。														
	18.90	-3.68			砂質粘土				16.90~21.40m: 頁岩と風化が混在して、粘土が混み砂質粘土状を呈す。5P採りに所々の粗礫が混在しているのが認められる。18.00mから石英角礫が混入する。石英は1cm程度の角ばったものが多く、かつ密集している部分もあり、石英角礫と思われる。 コアは20.82mから長柱状で採取されるが指圧へむ。 21.40~25.00m: 塊状中粒砂岩で、所々に石英角礫を挟む。コアは角礫短柱状で採取されるが、割れ目に沿った線が尖鋭を帯びたり、コアが細くなっている部分がある。コア断面をみると粒子が崩れ、コアの線は指圧で折れ、容易に潰すことができる。ハンマーの打撃で壊った音を発す。 25.00~25.70m: へび肌状に見える部分がある。 25.80~27.13m: へび肌砂岩。コアは上層より硬くなるが、表面をこするとわずかに粒子が分離し、コアの線が容易に折れ、指圧で潰れる。 27.13~28.45m: ラミナもしくは層状のクラックに沿って径1~0.4cmの赤褐色角礫が長さ1~10cmで線状をなしている。一部ハンマーの打撃で金属音を混じえ、硬くなっている。 27.13m、27.60m、厚さ数mmの頁岩の塊を混入。 28.45~30.35m: 明確な斑状構造の部分と、斑が線状に配列する部分とが混在する。														
	25.70	-12.48			へび肌砂岩				21.40~25.00m: 塊状中粒砂岩で、所々に石英角礫を挟む。コアは角礫短柱状で採取されるが、割れ目に沿った線が尖鋭を帯びたり、コアが細くなっている部分がある。コア断面をみると粒子が崩れ、コアの線は指圧で折れ、容易に潰すことができる。ハンマーの打撃で壊った音を発す。 25.00~25.70m: へび肌状に見える部分がある。 25.80~27.13m: へび肌砂岩。コアは上層より硬くなるが、表面をこするとわずかに粒子が分離し、コアの線が容易に折れ、指圧で潰れる。 27.13~28.45m: ラミナもしくは層状のクラックに沿って径1~0.4cmの赤褐色角礫が長さ1~10cmで線状をなしている。一部ハンマーの打撃で金属音を混じえ、硬くなっている。 27.13m、27.60m、厚さ数mmの頁岩の塊を混入。 28.45~30.35m: 明確な斑状構造の部分と、斑が線状に配列する部分とが混在する。														
	27.13	-13.91			砂岩				21.40~25.00m: 塊状中粒砂岩で、所々に石英角礫を挟む。コアは角礫短柱状で採取されるが、割れ目に沿った線が尖鋭を帯びたり、コアが細くなっている部分がある。コア断面をみると粒子が崩れ、コアの線は指圧で折れ、容易に潰すことができる。ハンマーの打撃で壊った音を発す。 25.00~25.70m: へび肌状に見える部分がある。 25.80~27.13m: へび肌砂岩。コアは上層より硬くなるが、表面をこするとわずかに粒子が分離し、コアの線が容易に折れ、指圧で潰れる。 27.13~28.45m: ラミナもしくは層状のクラックに沿って径1~0.4cmの赤褐色角礫が長さ1~10cmで線状をなしている。一部ハンマーの打撃で金属音を混じえ、硬くなっている。 27.13m、27.60m、厚さ数mmの頁岩の塊を混入。 28.45~30.35m: 明確な斑状構造の部分と、斑が線状に配列する部分とが混在する。														
	28.45	-15.23			へび肌砂岩				21.40~25.00m: 塊状中粒砂岩で、所々に石英角礫を挟む。コアは角礫短柱状で採取されるが、割れ目に沿った線が尖鋭を帯びたり、コアが細くなっている部分がある。コア断面をみると粒子が崩れ、コアの線は指圧で折れ、容易に潰すことができる。ハンマーの打撃で壊った音を発す。 25.00~25.70m: へび肌状に見える部分がある。 25.80~27.13m: へび肌砂岩。コアは上層より硬くなるが、表面をこするとわずかに粒子が分離し、コアの線が容易に折れ、指圧で潰れる。 27.13~28.45m: ラミナもしくは層状のクラックに沿って径1~0.4cmの赤褐色角礫が長さ1~10cmで線状をなしている。一部ハンマーの打撃で金属音を混じえ、硬くなっている。 27.13m、27.60m、厚さ数mmの頁岩の塊を混入。 28.45~30.35m: 明確な斑状構造の部分と、斑が線状に配列する部分とが混在する。														
30					中黄灰				21.40~25.00m: 塊状中粒砂岩で、所々に石英角礫を挟む。コアは角礫短柱状で採取されるが、割れ目に沿った線が尖鋭を帯びたり、コアが細くなっている部分がある。コア断面をみると粒子が崩れ、コアの線は指圧で折れ、容易に潰すことができる。ハンマーの打撃で壊った音を発す。 25.00~25.70m: へび肌状に見える部分がある。 25.80~27.13m: へび肌砂岩。コアは上層より硬くなるが、表面をこするとわずかに粒子が分離し、コアの線が容易に折れ、指圧で潰れる。 27.13~28.45m: ラミナもしくは層状のクラックに沿って径1~0.4cmの赤褐色角礫が長さ1~10cmで線状をなしている。一部ハンマーの打撃で金属音を混じえ、硬くなっている。 27.13m、27.60m、厚さ数mmの頁岩の塊を混入。 28.45~30.35m: 明確な斑状構造の部分と、斑が線状に配列する部分とが混在する。														

図 1-22(1) ボーリング柱状図 (25BW-19)

(盛土: 深度 0~15.20m, 旧表土: 深度 15.20~16.90m)



図 1-22(2) ボーリングコア写真 (25BW-19)
 (盛土：深度 0～15.20m, 旧表土：深度 15.20～16.90m)

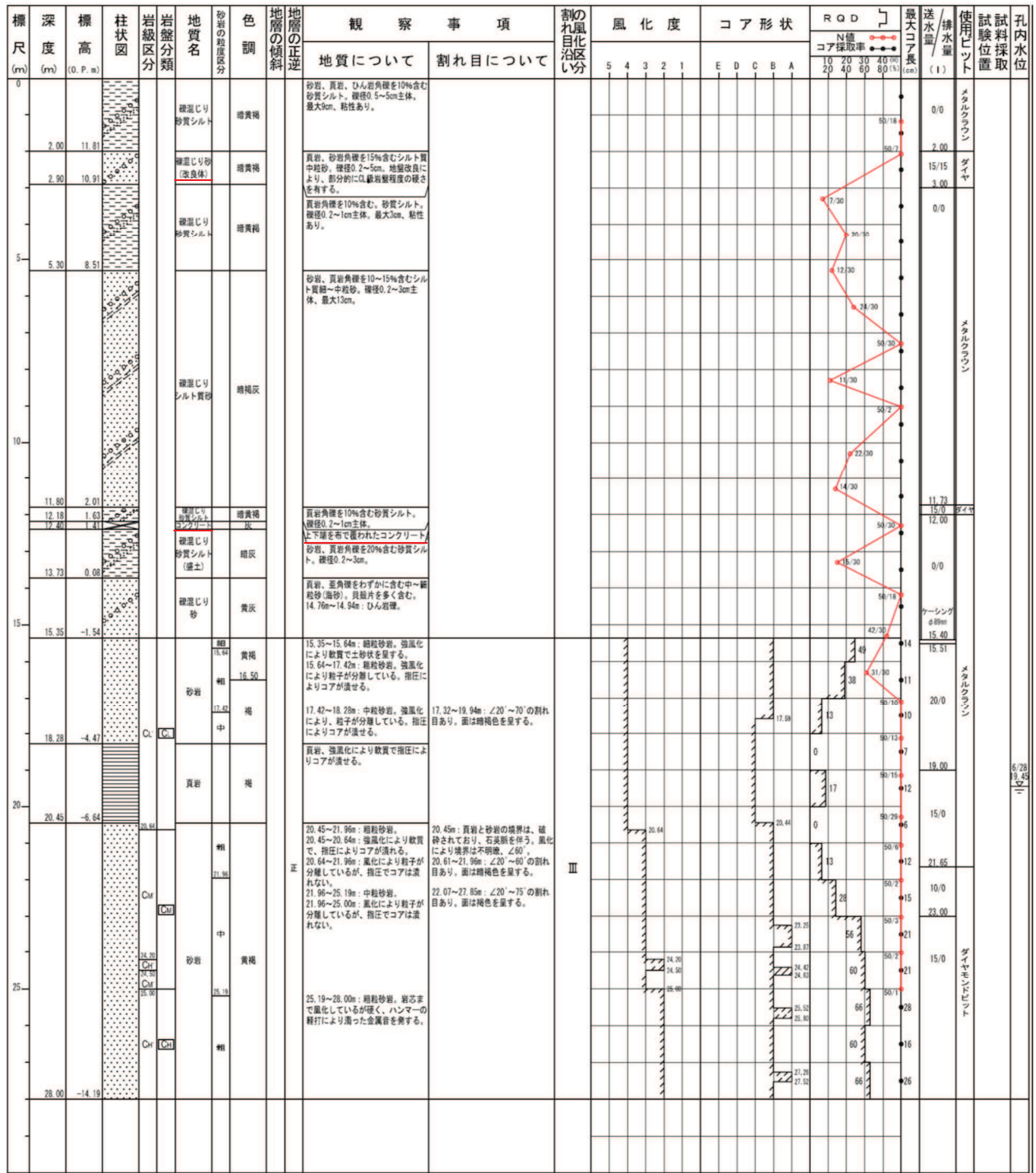


図 1-23(1) ボーリング柱状図 (25BW-20)

(盛土: 深度 0~13.73m, 旧表土: 深度 13.73~15.35m)



図 1-23(2) ボーリングコア写真 (25BW-20)
 (盛土：深度 0～13.73m, 旧表土：深度 13.73～15.35m)



図 1-24(2) ボーリングコア写真 (25BW-21)
 (盛土：深度 0～12.94m, 旧表土：深度 12.94～14.94m)

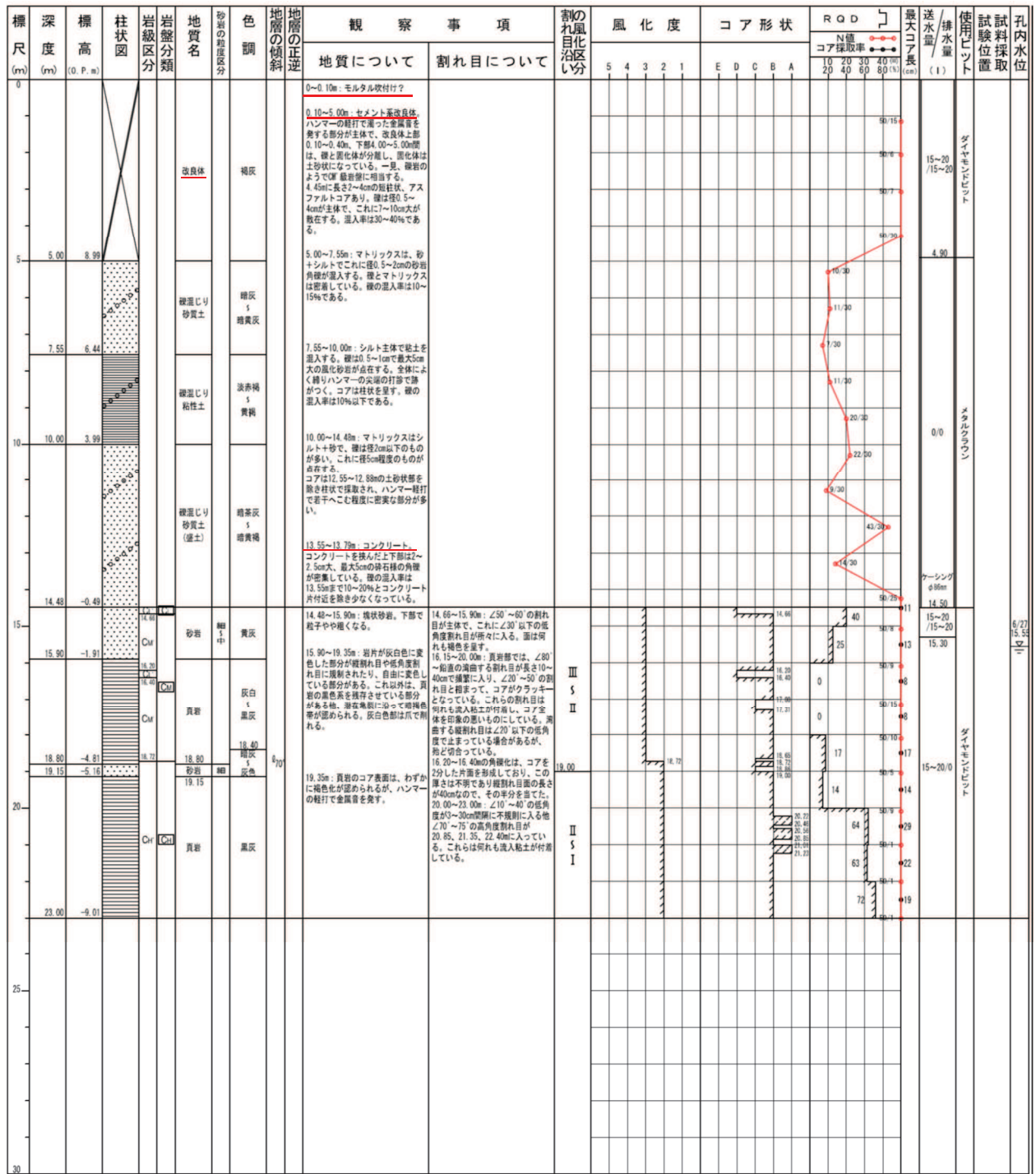


図 1-25(1) ボーリング柱状図 (25BW-22) (盛土: 深度 0~14.48m)



図 1-25 (2) ボーリングコア写真 (25BW-22) (盛土 : 深度 0~14.48m)

標尺 (m)	深度 (m)	標高 (O. P. m)	柱状図	岩盤区分	地質名	色調	地層の傾斜	観察事項		割の風化目治区	風化度	コア形状	R Q D	最大コア長 (cm)	送水量 / 排水量 (l)	使用ビット	試験位置	孔内水位
								地質について	割れ目について									
0	0.20	13.00			黄灰			0.20mまで厚層混入。マトリックスは砂質シルトで、礫はφ0.5~2cmを主とし、最大4cm程度を混入する。礫は頁岩・砂岩で風化により軟質化したもの、新鮮なものがある。礫の混入率は10~20%である。										
2.00	2.00	11.70			黄灰			φ0.5~2cm、最大3cm程度の砂岩。頁岩角礫が50~70%で主体をなす。頁岩は、強い圧力で折れる。砂岩は貫入試験で砕かれ、礫はもろくなっている。マトリックスは砂質土。										
3.70	3.70	9.50			黄灰			3.70~6.82m: マトリックスは砂く細粒分の粘性土でこれに1cm以下の礫が存在する硬直り粘性土である。										
5.00	5.00	7.20			黄灰			礫は砂岩・頁岩で、径1~3cm。最大短柱状の4cmで不規則に密集する部分がある密集部分。										
6.82	6.82	5.90			黄灰			4.50~4.80m: 短柱状2~4cm。 5.55~5.90m: 1~5cm。 6.62~6.82m: 1~3cm。 以上の密集ゾーンを除くと混入率は20~30%である。										
9.00	9.00	3.60			黄灰			6.82~11.00m: 上部に比べ礫径量が少なくなるも、マトリックスに風化は少ない。礫径は1~2cmが主体で、9.98mに径5cmがある。礫の混合率は、10~20%である。 7.15~7.46m: 含水比高い。										
11.00	11.00	2.20			黄灰			10.82m: 長さ2cm、幅0.3~0.9cmのビニール片あり、赤黄色。										
11.40	11.40	1.80			黄灰			11.00~11.40m: 細~粗砂よりなり、頁岩が混入。										
12.60	12.60	0.60			黄灰			11.40m: マトリックスはシルト・粘土の細粒分に砂が入る。礫は径0.5~2cmが主体で頁岩礫が多く、混入率は20%である。これに砂岩礫が、										
15.00	15.00	-1.80			黄灰			11.72m: 7cm。 12.68m: 4cm。 12.78~12.88m: 6cm、5cmに点在する。										
17.47	17.47	-4.27			黄灰			又、礫分の少ない部分も5~7cm厚で点在する。										
19.76	19.76	-6.56			黄灰			15.00~17.47m: マトリックスはシルトを混入するシルト砂質で、所々に下部で粘土も混入する。全体に含水量多くルーズである。礫は径0.5~2cmが主体で、最大6cm、混入率は20~30%である。										
20.50	20.50	-7.30			黄灰			17.35~17.65m: 含水量多く、空室にルーズである。 18.47~19.76m: 上部から6cmが減少する。礫は径1~3cmが主体で6cmも混入し、18.85mに径31cmの砂岩礫がある。 礫の混入率は70~80%である。 19.52m: φ4cmのコンクリート片あり、これ以外、観察無し。										
					砂質頁岩			φ0.5~1.5cmの砂礫と互層し、細粒を呈す。コアは新鮮である。										
								全体に $\angle 10 \sim 15$ の低角度でコア分層する。 20.12m: $\angle 40$ 、面のみ。										

図 1-26(1) ボーリング柱状図 (25BW-23) (盛土: 深度 0~19.76m)



図 1-26(2) ボーリングコア写真 (25BW-23) (盛土：深度 0～19.76m)

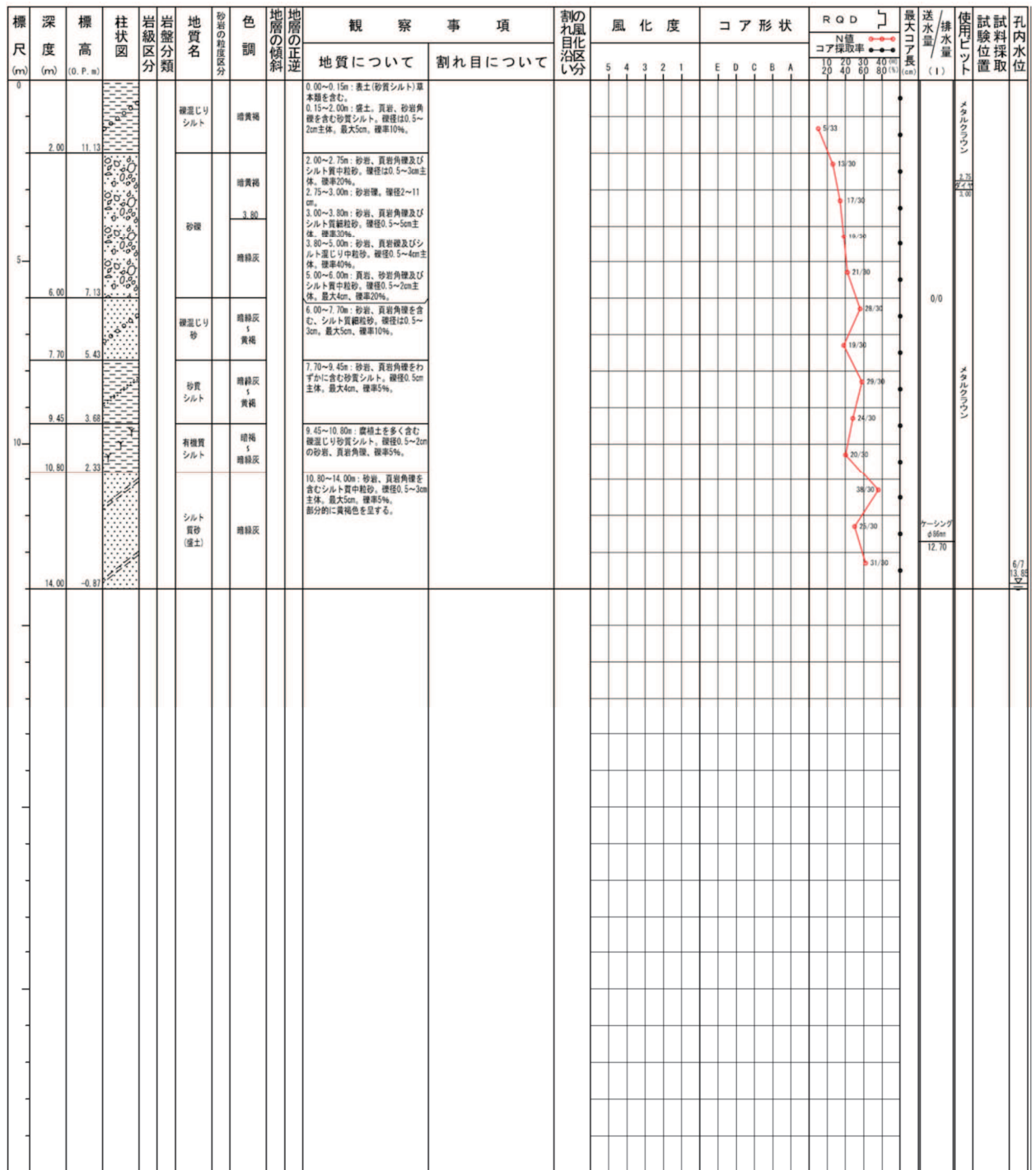


図 1-27(1) ボーリング柱状図 (25BW-24) (盛土: 深度 0~14.00m)

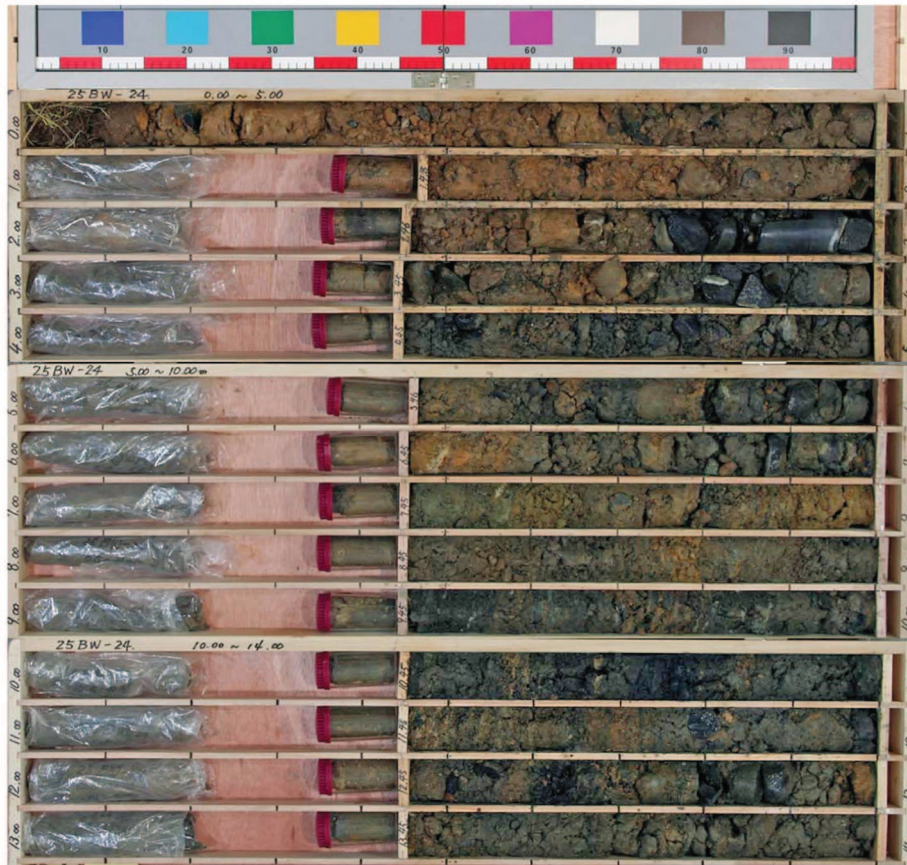


図 1-27(2) ボーリングコア写真 (25BW-24) (盛土: 深度 0~14.00m)